

マーサメリー通信

November 2018 Vol.9

発行:マーサメリー 編集人 安武真佐子 URL masmary.com

Mark Akixa (Native American Flute 奏者) at November Eleventh

夜の火の月の演奏会 2018年12月7日(金) Open 18:00 Start 19:20



12月の第1金曜日はMark AkixaさんのLive。

アメリカンインディアンが古来より吹いてきた木の縦笛、ネイティブアメリカン・フルート。伝統的に杉の木で作られているそうです。柔らかく人を包み込むようなその音色に耳を澄ませば、目の前の世界は広がります。

ギタリスト太田光宏さん(左)、パーカッショニスト よしうらけんじさん(右)と共に奏でる夜の火の月(12月)の演奏会。

お客様からお題を募る即興演奏は恒例です。今回はどんなお題が待っているのでしょうか。3人がそれぞれの呼吸を感じながらの即興は見応え聞き応えあります。マークさんとのインタビューも是非お読みください。とても興味深いお答えをいただきましたよ!

写真: 昨年のライブ本番直前の楽屋にて。ダブルフルートを手に、神秘的な衣装に身をまとったマークさん。

音楽は時に人に力を与え、心を弾ませ、時に慰め癒すパワーを持っています。

そんな豊かな時間を作りたくて、November Eleventhで企画・ブッキングのお手伝いをさせて頂いています。November Eleventhは音楽への愛情がいっぱい込められたLive Bistroです。

オーナーはミュージシャン・作曲家の宇崎竜童、作詞家の阿木燿子夫妻。ライブは一期一会。皆様のお越しをお待ちしております。

マーサメリー

マーサメリー (MM) : マークさん、1年振りのご無沙汰です。今回もよろしくお願いいたします！2018年。年賀状の準備の時期となりました。時間が経つのは早いですね、今年はどうな年でしたか？

Mark Akixa (MA) : 今年は8年前にリリースしたファーストアルバム『All My Relations』を再リリースした年でした。ライブで久しぶりに演奏した曲もあって感慨深かったですね。年賀状で思い出しましたが、今年は戌年だったので犬やオオカミに関する本を読み漁った一年でもありました。

MM: 2018年も様々なコンサートをされてきたと思いますが、特に印象に残ったコンサート/ライブはありますか？

MA: 8月にチェロの穴田貴也さんを招いて行った『All My Relations』再リリース記念コンサートが音楽的にもっとも充実していた気がします。あと印象に残ったと言えば、7月にまた東北を回ってきたことです。岩手では地元の方に花巻弁で宮沢賢治の「雨ニモマケズ」を朗読してもらったり、気仙沼では震災被害で建て直した神社で奉納演奏をしたり、互理の会場は津波で半壊したのをやはり建て直したお寺で、危険区域に指定されているのでその地域には普段誰も住んでいないのですが、コンサートのために元の住民の方たちが大勢集まってくれたりしたのは感動しましたね。

MM: マークさんは演奏活動のみならず、ネイティブ・アメリカン・フルートの普及活動もされていらっしゃると思いますが、中でも楽譜を読めなくても吹けるようになるのか？これは楽譜が苦手な方にとって朗報ですね！

MA: そうですね。私がやっている教室にも「楽譜は読めないんですけど…」と恐る恐る入会される方は多いです(笑)。ただ音楽というのは必ずしも楽譜に書いてある音符を再現することではなくて、何かをしながら鼻歌をフンフン歌うことだって立派な音楽だと思うのです。楽譜が苦手という理由で音楽から遠ざかってしまうのは実にもったいないことですし、ネイティブアメリカンフルートという楽器は鼻歌感覚で吹けるようなところもあるので、音楽はやってみたいけど敷居が高いと感じている方にはすごく入りやすい入り口だと思います。

MM: グラフィック・デザインもされていらっしゃいますが、マークさんのオリジナルTシャツは、バンングラデシユのストリートチルドレンを支援する活動なのですね。

MA: そうです。

MM: この支援活動のきっかけは？

MA: 昨年リリースした『Kokopelli』の発売記念Tシャツを作ろうと印刷会社を探した時に、たまたまバンングラデシユの支援をしている会社に巡り合ったのです。生地も良質でしたし、どうせ同じものを作るのであればそういう支援にもなるところがいいなと思って。なにかを買ったりするときその企業がどんな意識を持っているかということを知ることとはとても大切なことだと思います。自分たちの利益のことしか頭にない企業にお金を払っても世界はあまり良くならないでしょうから。

MM: この質問を作成していて「愛」という言葉が浮かんで来ました。「愛」と聞いて何が浮かびますか？

MA: ネイティブアメリカンフルートは求愛のときに吹かれたことから「ラブフルート」という呼び方もあるのですが…実は私は「愛」ってそんなに好きな言葉ではないのです(笑)。

「愛」は仏教とともに日本に渡りてきた言葉ですが、それは「性愛」を意味する言葉だったのです。ラブフルートにおける「ラブ」も同じですね。キリスト教が入ってきてからより広い意味で捉えられるようになったそうなんですけど、西洋のキリスト教徒がアメリカ先住民にしたことを考えると、やっぱり私には性愛と同様の「自分の好きなものだけ」を大切にすると、というイメージ、極端に言うと「それ以外のものが犠牲になろうが知ったことではない」という強烈な破壊的エネルギーをも内蔵している言葉というイメージがあるのですよ。人間の本质としてそういう両面性があるのしょうから、人間たちが「愛」を好んで使うのは分かる気はします。私は「慈悲」のほうが好きですけど。

MM: 1日の中で大事にしている時間はありますか？

MA: なにもしない時間ですね。

MM: グラフィック・デザインをしている時に曲は浮かびますか？それとも曲を書いている時にグラフィックが浮かぶのですか？

MA: 面白い質問ですね。考えたこともなかったな…そう言われてみると両者の思考回路は全く別で、デザインのときはデザインのことしか考えていないし、作曲のときは曲のことしか考えていないです。

MM: 今回のライブ、見どころは？

MA: 来年はソロアルバムを作ろうと思っていて、新しい曲を披露してみようかなと思っています。…それが見どころになるかどうかは分かりませんが(笑)

MM: 来年の抱負、決まっていられしたらそっと教えてください。

MA: ちょっと回答が前後してしまいましたが、ソロアルバムですね。自分では伴奏があったほうが良いと思っているからこそ今まで伴奏付きの曲を作ってきたのですが、伴奏無しで聴きたいという声も意外と多いのでちょっとチャレンジしてみようと思います。

MM: みなさんにメッセージをお願いします！

MA: いつも応援ありがとうございます！ 普段のライブ会場では初めて聴く方が多いのでどうしても楽器の説明やネイティブアメリカンの文化の紹介などに多くの時間を割くのですが、ノヴェンバーイレブンスでは自分が楽しむ場に勝手にさせてもらっています(笑)。皆様も一緒に楽しんでいただけたら嬉しいです。もちろん初めて聴く方も歓迎です！

会場:ノヴェンバー イレブンス 港区赤坂 3-17-8 都ビル 2F

●千代田線赤坂駅 1番出口 徒歩5分

●丸ノ内線・銀座線 赤坂見附駅 10番出口 徒歩5分

一ツ木通り沿い、ホテル VISTA 目の前。

予約 ¥3240 当日 ¥3780 Amuse 付き(別途 540円要)

電話予約 03-3588-8104 1時~6時(月曜定休)

いつでもメール予約 info@masmary.com